

(参考)「大政奉還150周年記念プロジェクト」ホームページ

▶ 開設日

平成28年3月31日(木)

▶ 参画都市の決定に伴い充実する内容

平成28年6月20日(月)から、参画16都市の、以下の内容について情報発信
〔都市の概要、メッセージ、幕末維新ゆかりの群像(人物)、幕末維新ゆかりの舞台〕
見どころ(名所旧跡等)、特産品 等

○ ホームページ画面例

(1) トップ画面



(2) 参画都市のページ（例：会津若松市）

歴史に並び、地域でつながり未来に活かす

大政奉還百五十周年 記念プロジェクト

目次

- トップページ
- 大政奉還とは
- 幕末維新の群像
- 幕末維新の舞台
- 幕末コラム
- お知らせ・イベント情報



幕末維新の舞台

トップページ > 幕末維新の舞台 > 会津若松市

会津若松市



会津若松市は、京都守護職を務めた松平容保（まつだいらかたもり）のお膝元会津藩二十三万石の城下町です。現在でも鶴ヶ城（つるがじょう）をはじめとする多くの史跡に往時の武家文化の面影を残し、また、大正ロマンあふれる七日町通り（なのかまちどおり）、東山・芦ノ牧（あしのまき）の二大温泉、会津漆器（しっき）や会津清酒といった伝統産業などが多くの人々を魅了しています。

会津若松市からのメッセージ

文久2年（1862）会津藩主松平容保は京都守護職拝命という苦渋の決断を迫られます。「大君の義、一心大切に忠勤を存すべく、列国の例を以て自ら勉るべからず」など家訓十五箇条に従い、火中の栗を拾う決断は「義に死すとも不義に生きず」という「ものふの心」を象徴しています。戊辰戦争（ほんせんそう）の悲劇から150年の節目を迎えようとする平成29年、幕末の京都で未来の日本のために、それぞれの信じる道を進んだ人々の末裔（まつえい）が一堂に会するこのプロジェクトが、次代を拓く新たなうねりとなりますことをご祈念申し上げます。

幕末維新の群像

松平容保

秋月梯次郎

孝明天皇

山本覚馬

幕末維新の舞台

1. 会津若松城（鶴ヶ城）

至徳元年（1384）に、南北朝期の統治者・華名直盛（あしななおもり）が東照川（ひがしくろかわやかた）を築いたのがはじまりといわれ、蒲生氏郷（がもうじょう）が7層、加藤時代現在のような5層の天守閣になりました。戊辰戦争では約1ヶ月の防戦に耐え難攻不落の名城として知られました。明治政府の命で取り壊されましたが、昭和40年に再建、平成12年に千飯櫓（ほしやぐら）と南走長屋を復元、23年に幕末当時の赤瓦屋根の天守閣をよみがえらされました。国指定史跡。
福島県会津若松市道手町1-1

関連サイトへ
2. 白虎隊十九士の墓（飯盛山）

戊辰戦争の折、16～17歳の少年たちで編成された白虎（びやっこ）士中二番隊20人が戸の白原合戦場から退却。滝沢峠の関道から戸（と）の口（くちせき）の洞門（どうもん）をくぐり、飯盛山（いもりやま）に着いたとき鶴ヶ城の天守閣は黒煙の中に見え隠れして、「城は陥落したか、今は主君のために殉じよう」と、全員が自決しました。
福島県会津若松市一箕町八幡弁天下

関連サイトへ
3. 旧滝沢本陣

参勤交代や領内巡視などの際の陣様の休息所。戊辰戦争の際に本営となり、白虎隊もここで命を受けて戦場へと出陣していきました。茅葺（かやぶ）きの屋根におおわれた書院づくりの建物は、国の重要文化財に指定。御入御門、御座（ござ）の間（ま）、御次（おつぎ）の間などが当時の姿のまま残されており、さらに歴代藩主の愛用した身回り品、参勤交代の道具類、古文書なども保管されています。建物のあちこちには弾痕や刀傷があり、幕末当時の戦いの痕跡をとどめています。
福島県会津若松市一箕町滝沢122

関連サイトへ
4. 阿弥陀寺・御三階

戊辰戦争の終結後、城下及び近辺で戦死した会津藩士の遺骸は、新政府軍の命令で触れることが許されず放置されていました。幾度も嘆願により、やっとその埋葬許可が下りたのは翌、明治2（1869）年2月。埋葬地は阿弥陀寺と長命寺に限られ、ここ阿弥陀寺には、およそ千三百柱にのぼる遺骸が埋葬されました。今でも春・秋の彼岸には供養会が行われ、戊辰戦争に散った若き藩士たちの魂を手厚く弔っています。阿弥陀寺には戊辰戦争戦死者が埋葬されており、家老・菅野維兵衛（かやのごんべえ）遠拝陣、元新撰隊隊士・斎藤（さいとうはじめ）の墓もあります。（会津人が薩長の戦没者を供養した「西軍墓地」は市内・東明寺にあります）
福島県会津若松市七日町4-20

関連サイトへ